

入学に関する説明会 ご挨拶

桜花爛漫の今日、ここに兵庫県立西宮甲山高等学校第38回生として187名の皆さんの入学を許可しました。皆さん、入学おめでとうございます。入学に際し、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、昨日総理大臣により緊急事態宣言が発せられ、兵庫県教育委員会より通知がありました。それを受けて本校では入学式という形ではなく、このような形で皆さんをお迎えすることとなりました。華やかに皆さんをお迎えすることができなくて、校長として本当に申し訳なく思っております。ただ、この新型コロナウイルスの災禍、つまり新型コロナウイルスの災い、が早く収まることを願うばかりです。

さて、今日から皆さんは、西宮甲山高校38回生として、しばらく自宅学習になるとはいえ、本校で学ぶことになりました。本校は昭和58年4月1日に自然豊かなこの地に開校しました。校名にある甲山は西宮地域のシンボルとして古くから人々に親しまれてきました。「森の学校だからできることがある」「小さな学校にしかできないことがある」のスローガンの下、自然豊かなこの甲山周辺の環境を生かして、本校独自の設定科目や甲山自然観察リーダー養成講座など、特色ある選択科目を用意しています。

本校は校訓である基（もと）「己を究め ふれあいのなかに 明日を拓く」を礎にして教育活動を行っています。入学するにあたり、その基に沿って皆さんに私から伝えたいことをお話します。

1つ目は「己を極め」です。周囲がどうであれ、惑わされることなく、自分を磨くことが大切です。皆さんはノミを知っていますね。犬や猫に寄生して血を吸うノミです。ノミは身体の長さの150倍くらいジャンプすることができます。人間にたとえたなら、ビルの30階以上の高さを飛び上がれる計算です。ところが、ノミを、伏せたコップの中に閉じ込めると、最初は思い切りよくジャンプするのですが、当然コップの底にぶつかってそれより高く飛べません。しばらくそうした後、コップを取り除いてもノミはコップの高さ以上飛ばなくなります。自分で限界を決めてしまったのです。皆さんは、このノミのようになってはいけません。自分で自分の限界を決めてしまうと、できるはずのこともできなくなってしまうからです。自分の限界を自分で決めることなく、能力をいかんなく高めて発揮してください。

2つ目は「ふれあいのなかに」です。皆さんも分っていると思いますが、人は一人では生きていけません。学校は多くの人が集まっているところです。当然いろんな人がいます。でも、皆さんが1日の大半を過ごす学校ですから、仲良くした方がいいのは、当たり前のことです。では、どうしたら仲良くできるのか。簡単なことです。他人を傷つけることを言ったり、したりしないことです。絶対してはいけません。無意識にしてしまうこともないように気をつけましょう。皆が互いを尊重し、やさしい気持ちと強い心を持つことができれば、学校生活が楽しいものになり、自らも大きく成長するはずです。

3つめは「明日を拓く」です。今、世の中は新型コロナウイルス感染症の広がりによって世界的に深刻な状況になっています。昔に比べれば短時間で世界中を移動できるなど、地球は小さ

くなつたとたとえられ、グローバリズムは進展してきました。良い面があるのですが、今回は良くない面が出てしまったのでしょうか。瞬く間に感染症が広がってしまったように思います。このように、これまでなかった問題がこれからも発生することでしょう。皆さんには、本校で学ぶことによって、限界を決めないでどんなことも必ず解決できると考えて努力し、他者を尊重して協力しながら、新しい世の中を作っていってもらいたいです。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。さて、高校生活 3 年間には、いろいろなことがあります。悩んで家で泣いている、先生に叱られて家でむしゃくしゃしている、保護者の皆さんに愚痴を言う、などということがもしかしたらあるかもしれません。悩んだり、困ったりするから人は成長します。特に高校生はなおさらです。どうかそんな時には、生徒の話を聞いてあげてください。ただ気をつけていただきたいことがあります。多くの場合、生徒は誰かに聞いてもらえれば、それですっきりします。共感して生徒の話を聞いてあげるだけで多くの場合は大丈夫です。ただ、もし心配なこと不安なことがあれば、いつでも担任、学校までご連絡ください。

本日入学された生徒の皆さん全員が、本校の 3 年間で大きく成長し、社会で活躍できる人となって卒業していくことを祈念し、挨拶いたします。

令和 2 年 4 月 8 日
兵庫県立西宮甲山高等学校
校長 早川 千也